

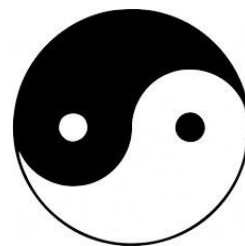


校長通信

# 空の飛び方

## 全ては心の持ち方次第

夏休み前の全校集会で二つの画像を使いながら「全ては心の持ち方次第」という話をしました。一つは中国の道教という教えの中で用いられる「太極図」(右下の図)です。白い部分は「明」を、黒い部分は「暗」を表しています。「明」の中にも「暗」は必ず存在し、「暗」の中にも「明」は必ず存在します。仮に「明」を幸せ、「暗」を不幸せだとします。「幸せ」な状況の中にも必ず「不幸」を引き起こす要素は存在し、逆に「不幸」の中にも「幸せ」をつかむきっかけとなる要素は必ず存在しています。このように「幸不幸」はあつて当たり前。ただ、私たちは、不幸な時にそれに執着してしまい、その中に「幸せ」になるきっかけがあることを見過ごしてしまうのです。不幸な状況の中でも「何とかする」と方法を探っていけば、必ず光は見つかるはずで。



もう一つは飛騨の郷土人形である「さるぼぼ」の写真です。「さるぼぼ」とは猿の赤ちゃんという意味で、厄除けや縁結び、あるいは安産のお守りとして重宝がられています。この人形には顔が描かれていません。猿の顔に目や鼻や口が描かれていないので気持ちが悪いという人もいますが、これは、その時々を通して自分の顔を映し出すためだと言われています。うれしい時には笑っているように、悲しい時には泣いているようにと、その人の気持ち次第で猿の顔の見え方も変わってくるということです。



実は、私には、この各務原西高校で一度目の勤務をしていた頃に購入し、今でも大切に保管している「さるぼぼ」があります。当時、私は男子バドミントン部の顧問をしていましたが、男子バドミントン部は、岐阜工業、県立岐阜商業に次ぐ、県下で3位の実力を誇っていました。そうした中で、個人ダブルスで全国大会を狙うことができるペアが完成した年がありました。その年の県新人大会は高山市で開催され、県2位を狙って高山に乗り込んでいきました。しかし、結果は県2位にはほど遠いベスト8止まりでした。大変悔しい思いをしながら高山を後にしたのですが、その時、ドライブインで「さるぼぼ」を購入しました。翌週、大垣市で団体戦があり、個人戦の悔しい思いを忘れないために、この「さるぼぼ」を持っていきました。そして目標にしていた県ベスト4を果たし、さらに準決勝にも勝って、決勝進出を果たすことができました。決勝戦では県立岐阜商業に敗れましたが、県2位で東海大会に出場することができました。すべては選手の力ですが、私自身、この「さるぼぼ」のおかげでもあると思い込み、その後もげんをかついで常に試合に持っていくようになりました。こうした「げんをかつぐ」ことも自分の心をコントロールする一つの方法であると思います。

成功は人の意志から始まります。全ては心の持ち方次第です。人生の中で、全て最強の人が勝つわけではありません。しかし、時間はかかるかもしれないけれど、できると信じている人はいつか必ず勝利を得ることができます。「どうせ～したって」という口癖を「もしかしたら」に変えてみるだけで、明るい未来が開けてくるはずで。

夏休み真ただ中、3年次の皆さんは受験勉強に明け暮れていることと思います。「夏を制する者は受験を制す」。この言葉には「本当の実力がつくまでには半年かかるので、夏休みから本格的な受験勉強をはじめなければ入試には間に合わない」という意味が込められています。「まだ半年ある」ではなく「もう半年しかない」と考えるべきです。3年次の皆さんが「絶対に合格してみせる」という強い気持ちで残り半年を過ごしてくれることを期待しています。